

雪の飯盛山(1643m)を歩く



3月上旬、友の会の全国連絡会議が山梨県で開かれました。私はその前日に、弟・治と久々に会い、二人で長野県南牧村の飯盛山(めしもりやま)に登りました。

駅から見える純白のトンがり

朝早くに発った私は11時40分にJR小海線清里駅に降り立ちました。改札口には先着していた弟(東京在住)が出迎えてくれました。

快晴、清里駅から見える真っ白な山容が否応なく登山意欲を掻き立て

↑駅のテラスから遠望される飯盛山(写真中央) ます。

服装を整えたのち、山に向かいました。両端に除雪された雪を積み上げている林道を走って、間もなく平沢の登山口に。登山口からは雪を踏んで歩く。雪は柔らかく、凍ってないので、アイゼンは着けず、スパッツで脚をくるみ、ダブルストックでゆっくりと進む。

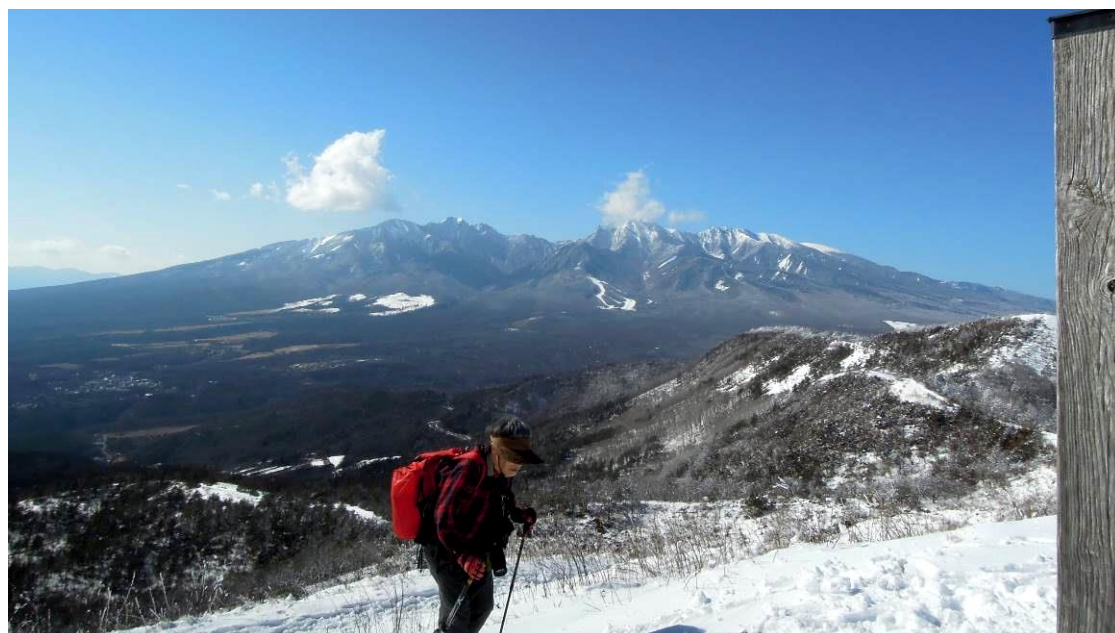
途中で休憩をとり、行動食をほおぼり、水分を補給し、最後は急斜面を登って、飯盛山山頂に。

いつもながら、素晴らしい眺望。西北には八ヶ岳連峰がくっきりとした姿で聳え立ち、南西には甲斐駒と南アルプスの雄峰たちが重畳として連なっています。

そして南には富士山が見えています。ただ、その周囲に雲がまとわりついていて、あとひとつ姿が不鮮明。ここ飯盛山は富士の好展望地として名高いだけに、少々残念。

でも、気分は爽快、前立腺ガンの治療、そして多忙な時期が続いたので、久々の山歩きなのです。

↓山頂からの八ヶ岳連峰。手前の登山者は弟の治。 改めて四囲の山々を眺め、山の空気を思い切り



吸って山を下りました。

この日の宿は、標高1700メートルのスキー宿で、落葉松林のただ中。

翌朝、その落葉松に薄く着いた霧氷がきれいでした。



続・続・二上山に咲く花々 1 1

ヤマブキ (山吹) バラ科ヤマブキ属

写真 故澤木仁さん

花言葉は「気品がある」。黄金色を山吹色というように、花の色は鮮やかな黄色で、鮮緑色の葉とのコントラストが魅力的。湿り気のある崖などに張り出すように枝を伸ばし、それが風に揺られる様子が名前の由来という。

園芸品種のヤエヤマブキは結実しません。



続・続・二上山に咲く花々 1 2

ムラサキケマン (紫華鬘)

ケシ科キケマン属

写真は故澤木仁さん

花言葉は「喜び」。登山道の傍らでよく目立つ花を咲かせます。

高さは20~50cm。華鬘は仏教寺院の装飾品の一つ。もとは生花の花輪だったらしい。

でもこの花には、荘厳さよりも春のよろこびを感じます。